VGC-3362（H）+VKC-2862（H）型-R（単棟）

建築面積	37.54m² （11.36坪）	（間口柱芯寸法）×（奥行柱芯寸法）

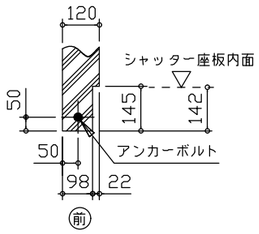
構造耐力上主要な部分の部材

部材名	形状	板厚	使用材料	有効細長比
前柱	□-85 x 115	1.6mm	JIS G3312 塗装溶融亜鉛めっき鋼板 CGCC	70.0
後柱	⌊-115 x 115	1.6mm	JIS G3312 塗装溶融亜鉛めっき鋼板 CGCC	55.0
中柱（左右）	□-85 x 84	1.6mm	JIS G3312 塗装溶融亜鉛めっき鋼板 CGCC	76.6
桁前	⌀-336.5 x 79	1.6mm	JIS G3312 塗装溶融亜鉛めっき鋼板 CGCC	
桁中	⊏-182.5 x 79	2.3mm	JIS G3312 塗装溶融亜鉛めっき鋼板 CGCC	
桁後	⊏-155 x 85	1.2mm	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛めっき鋼板 CGLCC	
壁パネル	⌣-25 x 701(350.5)	0.5mm	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛めっき鋼板 CGLCC	
ブレース	———	7.0⌀	JIS G3101一般構造用圧延鋼材 SS400	
ターンバックル	———	7.0⌀用	JIS A5541建築用ターンバックル胴 STKM	
アンカープレート	———	6.0mm 9.0mm	JIS G3101一般構造用圧延鋼材 SS400	
桁前（P）	⌈-228 x 79	1.6mm	JIS G3312 塗装溶融亜鉛めっき鋼板 CGCC	
桁（P）	]-186.5 x 79	1.6mm	JIS G3312 塗装溶融亜鉛めっき鋼板 CGCC	
梁（P）	⌉-287.5x139	1.6mm	JIS G3312 塗装溶融亜鉛めっき鋼板 CGCC	
前柱(P)・後柱(P)	⊡-85x118	1.6mm	JIS G3312 塗装溶融亜鉛めっき鋼板 CGCC	165.9
中柱(P)	⊡-85x145	1.6mm	JIS G3312 塗装溶融亜鉛めっき鋼板 CGCC	151.5

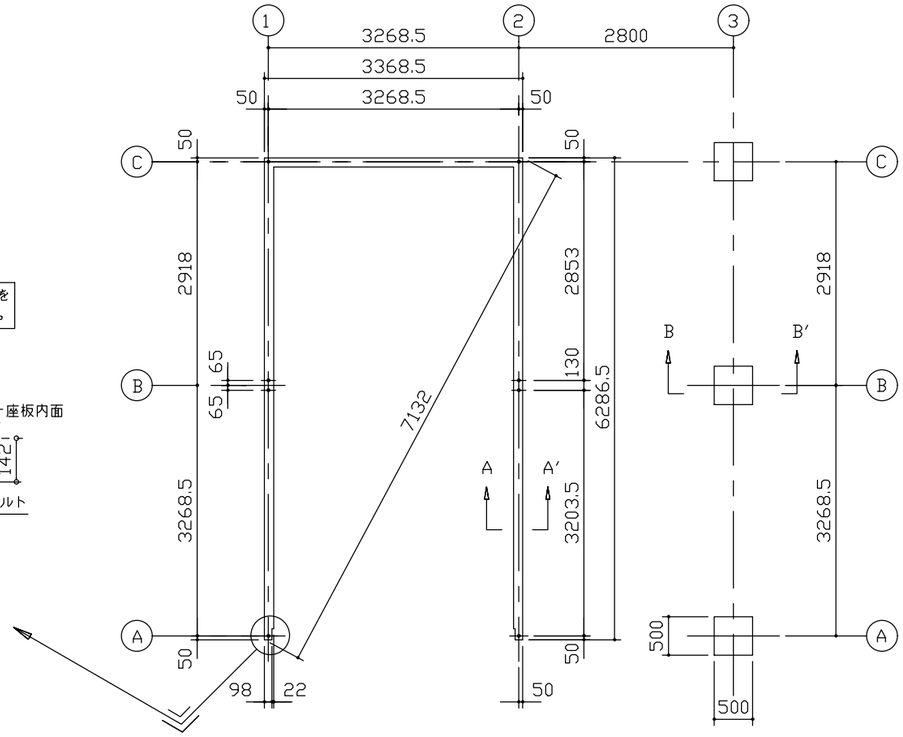
構造耐力上主要な部分以外の部材

部材名	形状	板厚	使用材料
上枠	⌈-430 x 55	1.0mm	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛めっき鋼板 CGLCC
下枠	⌈⌉-81 x 64	1.0mm	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛めっき鋼板 CGLCC
中柱カバー	⌣-26 x 145	1.0mm	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛めっき鋼板 CGLCC
間柱	⊏-31 x 24	1.2mm	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛めっき鋼板 CGLCC
屋根	⌇-88 x 600	0.5mm	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛めっき鋼板 CGLCC
シャッタースラット	⌇-14.5 x 71	0.6mm	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛めっき鋼板 CGLCC
鼻隠し前	⊂-130 x 113	0.6mm	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛めっき鋼板 CGLCC
鼻隠し後	⊏-122 x 48	0.5mm	塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛めっき鋼板（ツートンカラー）
ケラバ	⊏⌉-130 x 135.5	0.5mm	塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛めっき鋼板（ツートンカラー）

シャッター降下面は土間を水平に仕上げてください。



シャッター部分詳細図
（ S =1/20 ）



布基礎伏図（S= 1/80）

・布基礎断面図　縮尺=1/20

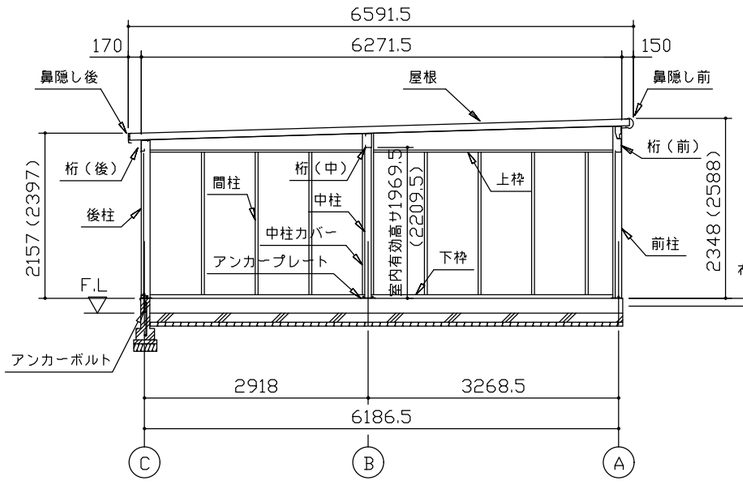
（地耐力　50KN/m²以上,コンクリート設計基準強度　18N/mm² 以上
基準風速 34m/s ，地表面粗度区分Ⅱ）

＜上記条件での参考図です。＞

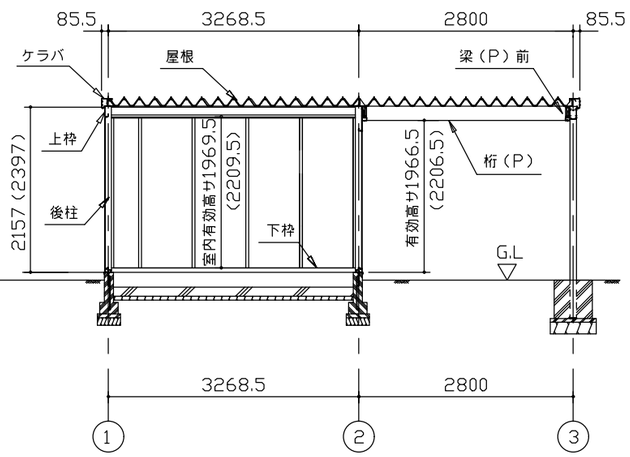
注１）地耐力が 50kN/m² 未満（30kN/m² 以上）
　　の場合は、地耐力に応じた基礎を設計して下さい。

注２）寒冷地の場合、凍結深度等を考慮し、実情に
　　あわせて設計して下さい。

注３）その他現地の実情にあわせて設計して下さい。

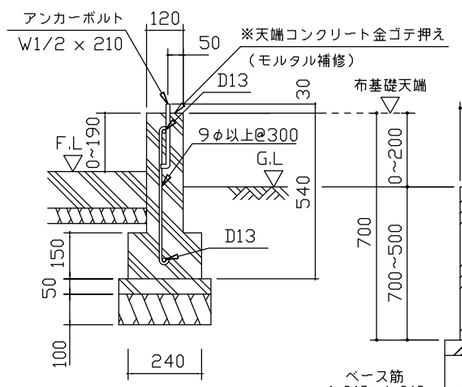


側面断面図（S= 1/80）

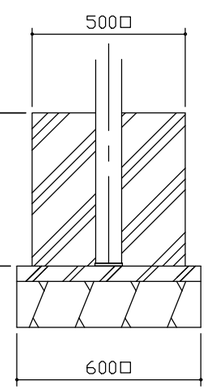


正面断面図（S= 1/80）

アンカーボルトの止結は、ダブルナット等の戻り止めを施す事。



A ~ A′断面



B ~ B′断面

名称	ヨドガレージ ラヴィージュⅢ	株式会社 淀川製鋼所
機種名	VGC-3362(H)+VKC-2862(H)型-R(単棟)	

＜VGC−3362+VKC−2862−R−1−B_2.DXF ＞